

令和8年7月17日

松阪市議会議長
濱口高志 様

海住恒幸

研修参加報告書

研修会 議員力研究会

期日 令和8年7月4日（土） 午後1時～午後5時

会場 名古屋国際センター

研究会は、岐阜県多治見市の幹部職員として、市長マニフェスト・サイクルの総合計画の策定など、実務者サイドから市長のユニークな市政を支えた青山崇氏（自治体学会副理事長）を常任の講師に迎え、年度に4～5回、名古屋駅から徒歩で歩いて行ける会場で開催している。会員は10人。



1、事例報告

（１）生駒市議会 塩見牧子議員の事例報告「議会における AI の活用」

研究会では、議会における AI の活用については取り組んだことがなかったので、会員の中で先進的に取り組んでいる塩見氏から学ぶ機会を持った。

基本的な活用例として多様なコンテンツの作成が可能である。委員会や本会議の文字起こしや要約で論点整理や要旨抽出を効率的に行うことができる。また資料分析や条例案の作成支援にも役立てている。さらには、市の答弁や条例改正案に対して過去の議事録と照合させて矛盾点を指摘することができる。

（２）瀬戸市議会 白井敦議員の事例報告「再質問の位置付け」

瀬戸市長が全員協議会で「再質問は確認程度として深掘りはすべきでない」と発言したことが問題になっている。

同市長は次の発言をした。

「本市議会の議員を経験した者として本市議会における現状についてはいささか危惧しております。代表質問や一般質問につきましては通告制度がとられておりますが、一部の議員におかれましては再質問での議論に力を偏らせ過ぎているように感じております。確認程度の再質問を超えた深掘り、関連質問の範囲を超えていると感じたこともたびたびございました。（中略）通告制度の重要性を再認識していただきたく存じます。」

これについては研究会メンバーは驚いた。「１回目は前哨戦。２回目からが本番の政策議論」など取り扱いについて異論が相次いだ。

１回目の質問が中心との考え方は、質問通告もしてあるので朗読会となり、議会のセレモニー化が進む。そのような懸念があることを承知しているであろう市長（市議会議員出身）が、通告のない再質問は１回目の質問の補足のような捉え方をしているとは信じ難い。

2、意見交換

テーマ「委員会旅費の見直し」（犬山市議会）

委員会の自由な活動のためには調査に必要な経費が必要だが、現状は旅費（一人当たり 7 万円）のみとなっている。松阪市議会でも、手土産代はあっても調査研究費はなく、今日的な視察には不合理であることから講師謝礼や資料購入費が認めらるようになった例を示した。

以上